

「土砂災害を前にして、私ができること」

福岡県 宗像市立日の里中学校 2年 ^{やまくち}山口 ^{りお}璃乙

今年の8月9日、九州北部で記録的な豪雨が発生した。私の住んでいる宗像市でも、2日間にわたり1時間に約110ミリの猛烈な雨が降った。当初、私は雨と言っても私たちの住む地域はそんなに被害がないだろうと気にしていなかったが、避難警報が出たり、土砂災害警戒などのニュースが繰り返されたりして心配になった。私の住んでいる地域でも停電があり、私たち家族は早めに食事をして、お風呂を済ませて災害に備えることにした。家の窓から外の様子を見ると、冠水している場所もあった。

雨も落ち着いてきた頃、テレビのニュースを見ていると衝撃を受けた。私の地区で土砂崩れが起こっていた。私がよく自習学習で利用している地域の施設の敷地が被害に遭っていたのだ。被害が広がらないように、消防団がブルーシートを掛けて迅速な対応をしていたようだ。さらに、私の祖父の家の近くにある大きな川の護岸コンクリートが崩れ、川の水が氾濫し、周辺に住んでいる人たちの家が浸水していた。心配で電話すると、祖父は大事には至らなかったようで一安心した。中でも、私が最も衝撃を受けたのは、宗像大社の土砂崩れだった。冠水しているところに裏山から大量の土砂が流れ、欄干の一部が押し流されている状態の映像が映し出されていた。また、境内の地面も縦約10メートル、幅約5メートルにわたって大きく抉られていた。宗像大社は、私が生まれたときから毎年初詣に行ったり、七五三などで訪れたりする場所で、このニュースを目にしたときは、胸が締め付けられるような気持ちになった。早めの修復を望んでいるが、宗像大社は「神宿る島」として宗像・沖ノ島と関連遺産群として、2017年に世界遺産に登録されているため、許可なく修復することができないのだそうだ。修復されないまま、大雨や台風などの自然災害で二次災害が起きないことを願うばかりだ。

今回の豪雨での浸水や土砂崩れを目の当たりにし、私にできることは何かを考えた。まず、ハザードマップをもとに地域の特別警戒区域を改めて確認し、認識することを心掛けることだ。しかし、今回私の地区の土砂崩れはハザードマップに警戒区域となっていない場所ではなかった。ハザードマップには載っていない場所であっても、近所の危険箇所を確認しておく必要があると感じた。次に、ボランティアには積極的に参加することだ。今回の大雨で流れ込んだ土砂や浸水による家財の撤去などをお手伝いする地域ボランティアがあったのをニュースで知った。中学生の私にできることは少ないかもしれないが、少しでも協力したいと思った。最後に、防災への備えをもっとしっかりすることだ。今までは大きな災害に遭ったことがなかったので、台風や地震が起こったときに浴槽に水を溜めておく程度の準備しかしていなかった。私たち家族は防災グッズや防災バッグなどを持っていなかったの、少しずつでも準備をしていくべきだと思った。

私は今回起きた記録的豪雨での浸水や土砂災害を目の当たりにして、自分自身も被害に巻き込まれないようにするためにどうするかを初めて深く考えることができた。そして、災害への備えを改めて心掛けようと強く思った。私や私の家族だけでなく、周りの人たちも防災意識を高めていくことで、地域全体が自然災害に備えるようになるだろう。私の中学校では総合的な学習の時間で防災学習をしている。私たちは今、小学校に防災クイズをしたり、実際に防災グッズを一緒に作ったりする取り組みをしている。市内一斉防災訓練にも参加する予定だ。自然災害が平日の日中に発生したとき、私の地域に住んでいる多くの大人たちは地域外で仕事をしている。そうすると、避難所に来るのは働いている社会人より私たち児童生徒や高齢者が多くなることが予想される。避難所は私たちの中学校になるため、先生たちや市役所の人たちもいるだろうが、大人にだけ避難所運営を任せてしまえば負担が大きすぎる。私たち中学生が避難所運営に参加できれば、小さい子から高齢者の人たちまで、安心安全な避難所になるだろう。災害被害が大きければ大きいほど、市役所や消防の公助が難しくなる。まずは私たちで自助、共助に努めることが多くの命を守ることになる。いざというときに備えて、まずは私たちが防災に備えて、防災意識を地域全体で高めていきたい。